

ペルー共和国ナスカ市街地の近郊で新たな地上絵を発見しました。

#### (1) はじめに

平成 26 年度の現地調査でナスカ市街地（ペルー共和国イカ県ナスカ市）近郊において、24 頭の動物の地上絵を新たに発見しました。このうち 5 点は、平成 25 年度の調査で発見された動物の地上絵の付近から見つかりました。残りの 19 点は付近の山の斜面部に、5 つのグループに分かれて描かれています。その大部分はラクダ科動物のリヤマだと考えられます。

平成 25 年度の現地調査で発見した 17 頭の動物の地上絵と合計すると、41 点もの地上絵がナスカ市街地の近郊に集中的に描かれていることとなります。これだけの数の地上絵が集中的に描かれている地区は他に例がありません。

劣化しているため、全ての動物の地上絵の正確な形を判別することは困難です。そこで今回の発表では、3D スキャナーおよび写真を用いた分析にもとづいて作成した地上絵の図版を提示します。

今回の発表内容について、平成 26 年度中にペルー文化省の文化財担当官に対して現地説明を行い、報告書を提出しました。

#### (2) 5 つのグループの地上絵

第 1 グループには 7 点の動物の地上絵があります。最も大きい地上絵は全長約 10 メートルです。このグループの地上絵は、今回発見した地上絵の中で最も西側に分布します。

第 2 グループは、第 1 グループのすぐ北東に分布しています。全長 5～10 メートル程度の大きさの動物の地上絵が 2 点確認できました。

第 3 グループは、第 2 グループのすぐ南東に分布しています。このグループに含まれるのは、全長約 5 メートルの動物の地上絵 1 点のみです。

第 4 グループは、第 2 グループと第 3 グループの北東に分布しています。全長約 10 メートル以下の大きさの地上絵が山の斜面に 6 点描かれています。

第 5 グループは、第 4 グループの南東に分布し、今回発見した地上絵の中で最も東側に分布します。ここには 3 つの動物の地上絵があります。その中で最も大きい地上絵は全長約 20 メートルです。

### (3) 制作時期

今回発見した地上絵は、パラカス後期（紀元前 400～紀元前 200 年頃）に制作されたと考えられます。平成 25 年度に発見した 17 頭の動物の地上絵も、同じ時期のもので、これらの地上絵は、有名なハチドリやサルの上絵以前に制作されました。

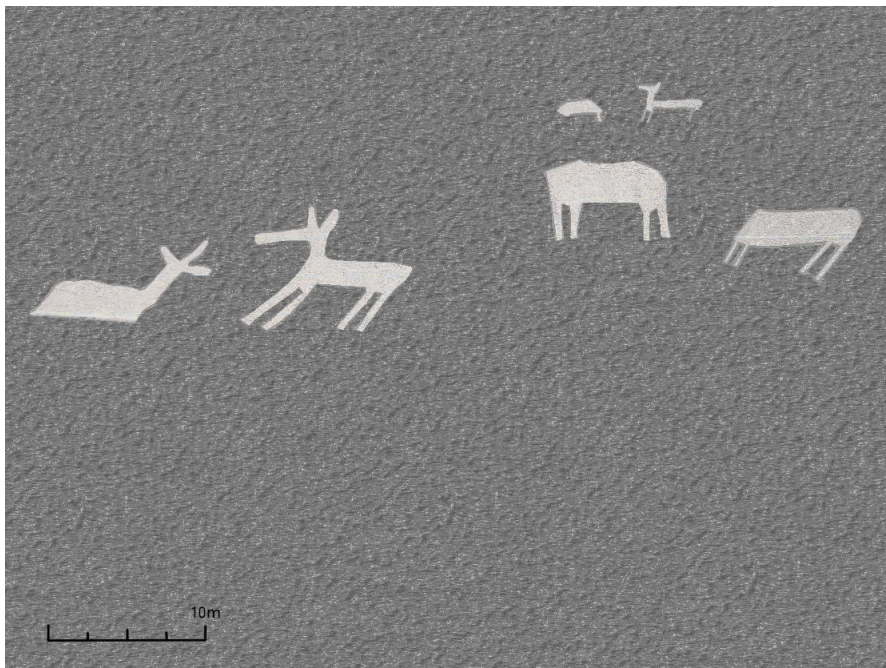
ハチドリの地上絵は、動物の外形に沿って小石を線状に除去して制作されているため、白い線で描いたように見えます。一方、今回の地上絵は、動物の外形とその内側の小石を、面状に除去して制作されています。これはパラカス後期の地上絵の特徴です。

今回の地上絵はすべて丘の斜面に描かれています。パラカス後期の地上絵は、丘の斜面に描かれることが多いので、この点からも今回の地上絵がパラカス後期のものだと考えられます。

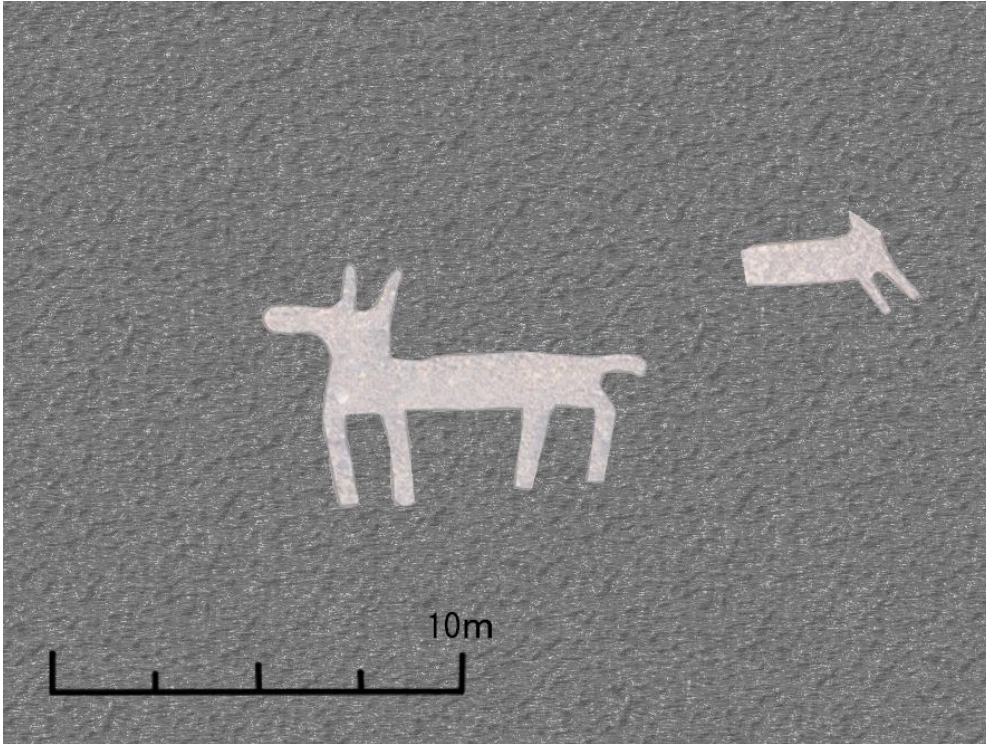
### (4) 地上絵の保護

これらの地上絵の付近には、現在、鉱山関係の作業場があります。今後、ナスカ市街地が拡大するに伴い、地上絵が描かれた地区に、居住地や畑が広がる可能性があります。

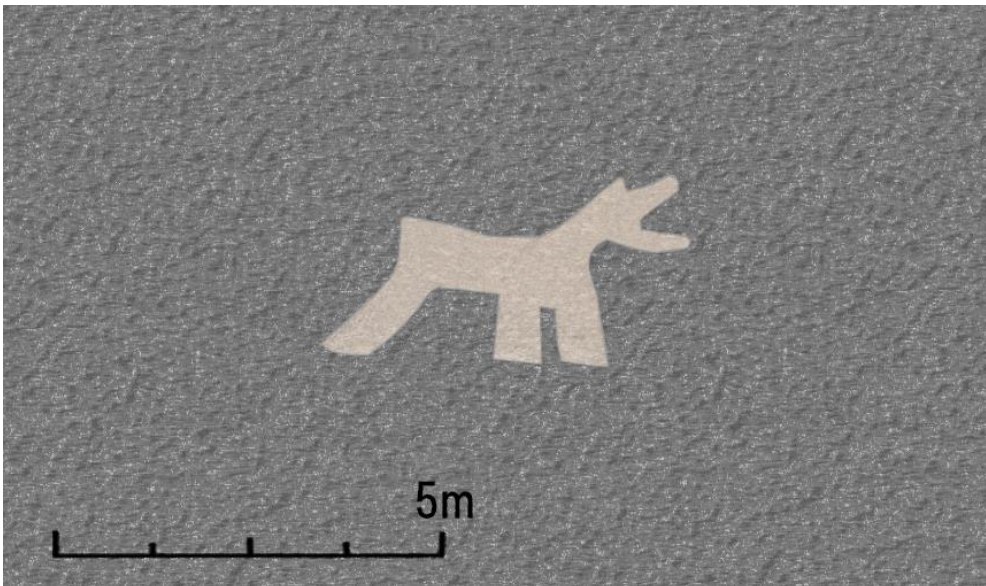
地上絵を保護するとともに、地上絵と共存するためには、地上絵の分布域を確定するとともに、その存在が広く認知される必要があります。今後、こうした活動をペルー文化省およびナスカ市当局と協力して実施する予定です。



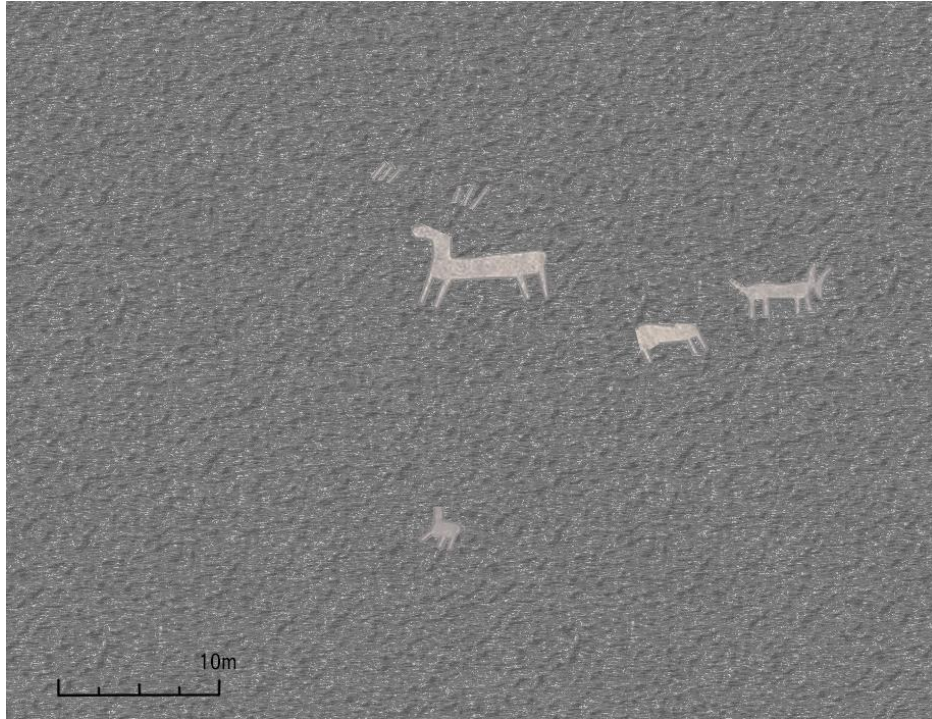
動物の地上絵（第1グループの一部）



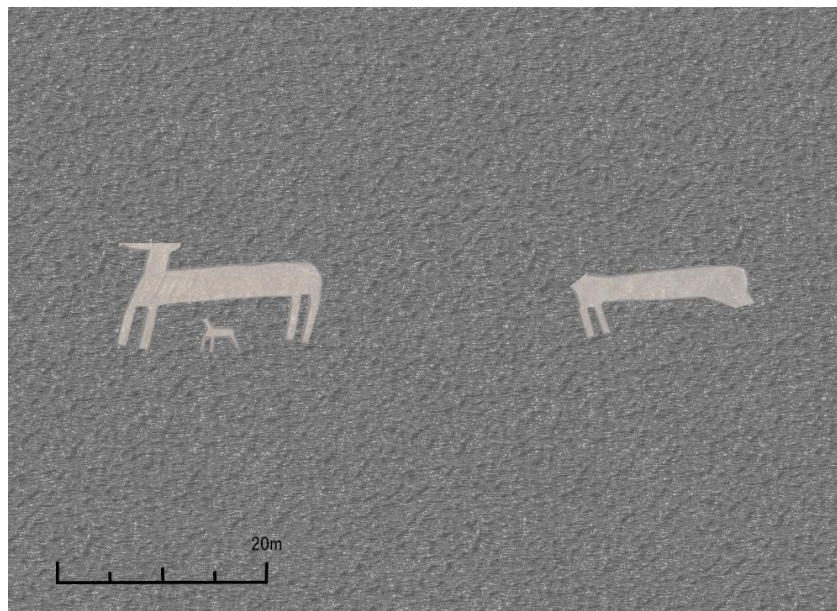
動物の地上絵（第2グループ）



動物の地上絵（第3グループ）



動物の地上絵（第4グループの一部）



動物の地上絵（第5グループ）